教育学研究科教職実践開発専攻(教職大学院) 学校教育実践高度化コース カリキュラムツリー

ディプロマポリシー:

教職実践開発専攻(教職大学院)学 校教育実践高度化コースを修了するた めには、当該課程の標準修業年限 2 年 以上在学し、共通科目 20 単位、教育 実践研究科目 10 単位、専門科目18 単 位、合計 48 単位以上を修得すること。

研究報告書を作成し、教職実践開発 専攻の審査委員会の審査に合格すると、 学校教育実践高度化コースを修了する ことができる。

修了した者には、教育修士(専門 職) の学位が授与される。

カリキュラムポリシー:

①全体の方針

学校教育実践高度化コースは、教育実践に関する専門的知識・技能を深化させて資質・能力(コンピテンシー)を育成する研究、新しい分野の指導方法や学校・地域の課 題解決法の開発などに関する研究力と開発力に支えられた高度な教育実践力を備えた人材を育成するための理論と実践の往還を特徴とするカリキュラムを編成する。

②教育課程編成の方針(「修得すべき知識・能力」への対応)

下記枠内に示す。

- ③教育課程における教育・学習方法に関する方針
- ・様々な専門性を有する研究者教員と実務家教員が関われるように、多くの授業を、オムニバス方式ではなく共同開講の方式にしている。
- ・主体的で対話的に学ぶことを重視し、ディスカッションや発表の時間などを多くとっている。
- ・教育実践研究(実習)を10単位設定して、常に、大学院生が、教育現場で学べる体制をとっている。
- ・教育実践研究における実習場所は、学校だけでなく、不登校児童・生徒の適応指導教室、非行少年の支援施設、情緒障害児短期療養施設等も設定している。これらの施設 で学んだ大学院生は、心理学や教育学を専門とする教員と振り返りミーティングをもち、理論と実践の往還を体験する。
- ・大学院生が、地域や学校現場に積極的に出向いてゆき、そこで起こっている問題を現場の人と一緒に考える授業も複数開講されている。
- ④学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、教育実践研究の取組状況、研究報告書の作成状況、取得単位数、GPA等を可視化することによって、 教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価する。また、研究報告書については、研究報告書の評価基準を明示し、その基準に基づき適切に評価する。

- ・どの授業においても、試験、レポート、授業への積極的関与などの複数の視点から、総合的に評価する。
- ・どの授業においても複数の教員の意見を総合して、一人一人の院生の評価点を決定する。
- ・教育実践研究の評価については、普段の指導、日誌、実習先の先生方からの情報などを元に指導教員が作成した原案を教職大学院運営委員会に提出し、委員会で様々な専 門性を持った教員が総合的に評価をする。

高度な専門的知識・技能及び研究力

授業実践、生徒指導・教育相談、学級経営・保健室経 営・学校経営に関する高度な専門的知識と研究開発力を持 ち、教育現場でチームとしての仕事を組織しリーダーシッ プを発揮するための創造力、および学校改革のマネジメン トに関与する能力を修得するためのカリキュラムを編成す

学際的領域を理解できる深奥な教養力

現代社会の変化、教職科学の進歩、子どもの変容など幅 広い課題に対応できる高度で普遍的な教養を身につけ、教 育関連諸科学の知見を動員して、教育現場の複雑な問題を 解決する能力を育成するカリキュラムを編成する。

グローバルな視野と行動力

グローバル化の中で、学校や地域が直面する現代的教育 課題に対応するための高度な専門知識と幅広い視野を有し、 授業実践、生徒指導・教育相談、学級経営・保健室経営・ 学校経営など学校現場における課題解決のための積極的な 行動力を育成し、課題解決のためのコミュニケーション能 力を育成するカリキュラムを編成する。

地域社会を牽引するリーダーカ

学校・地域・家庭との連携を密にして、学校と地域との 交流を深め、地域の問題解決の方法を開発し、地域貢献に 資する能力、および学校現場・地域における指導的人材と して活躍する能力を育成するカリキュラムを編成する。

教育実践研究科目

教育実践研究 III

教育実践研究 II

共通科目

複合領域

インクルーシブ教育システム論

専門科目

成果報告会

教科等の授業開発・実践研究Ⅰ~Ⅱ

教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・ 実践研究Ⅰ~Ⅳ

研究報告書作成

「豊かな心」を育む授業実践の開発

道徳教育と生徒指導

学校保健の理論と実践

教育コミュニケーションデザ

共通 必修領域

教育研究方法論

実践課題研究

共通科目

教育実践研究 I

「21世紀型能力(確かな学力)」を育成す 教育相談実践論 るカリキュラム・デザイン

学校カリキュラム・授業の改善を図るための 学校マネジメントと学校改善 マネジメント

「21世紀型能力(確かな学力)」を育成す る協働的な学びの授業デザイン

小学校英語活動の授業デザイン

授業のユニバーサルデザイン論

ICT教育実践論 牛徒指導実践論

学級経営の実践と課題

学校教育と集団心理療法 現代教員論

学校と地域社会(地域と共にある 学校づくり)

複合領域

ネット教育コミュニケーション論

専門科目

学習科学・授業研究方法と 授業開発・実践研究 生徒指導問題解決方法 I · Ⅱ 健康教育の理論と実践Ⅰ・Ⅱ 学校と家庭・地域の連携構築 学校の危機管理の理論と実践

教育学研究科教職実践開発専攻(教職大学院) 教科教育実践高度化コース カリキュラムツリー

ディプロマポリシー:

教職実践開発専攻(教職大学院)教科教育 実践高度化コースを修了するためには、当該 課程の標準修業年限 2 年以上在学し、共通科 目 20 単位、教育実践研究科目 10 単位、専 門科目18 単位、合計 48 単位以上を修得する こと。

研究報告書を作成し、教職実践開発専攻の 審査委員会の審査に合格すると、教科教育実 践高度化コースを修了することができる。

修了した者には、教育修士(専門職)の学 位が授与される。

カリキュラムポリシー:

①全体の方針

教科教育実践高度化コースは、教育実践に関する専門的知識・技能を深化させて資質・能力(コンピテンシー)を育成する研究、新しい分野の指導方法や学校・地域の課 題解決法の開発などに関する研究力と開発力に支えられた高度な教育実践力を備えた人材を育成するための理論と実践の往還を特徴とするカリキュラムを編成する。

②教育課程編成の方針(「修得すべき知識・能力」への対応)

下記枠内に示す。

- ③教育課程における教育・学習方法に関する方針
- ・様々な専門性を有する研究者教員と実務家教員が関われるように、多くの授業を、オムニバス方式ではなく共同開講の方式にしている。
- ・主体的で対話的に学ぶことを重視し、ディスカッションや発表の時間などを多くとっている。
- ・教育実践研究(実習)を10単位設定して、常に、大学院生が、教育現場で学べる体制をとっている。
- ・教育実践研究における実習場所は、学校だけでなく、不登校児童・生徒の適応指導教室、非行少年の支援施設、情緒障害児短期療養施設等も設定している。これらの施設 で学んだ大学院生は、心理学や教育学を専門とする教員と振り返りミーティングをもち、理論と実践の往還を体験する。
- ・大学院生が、地域や学校現場に積極的に出向いてゆき、そこで起こっている問題を現場の人と一緒に考える授業も複数開講されている。
- ④学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、教育実践研究の取組状況、研究報告書の作成状況、取得単位数、GPA等を可視化することによって、 教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価する。また、研究報告書については、研究報告書の評価基準を明示し、その基準に基づき適切に評価する。

- ・どの授業においても、試験、レポート、授業への積極的関与などの複数の視点から、総合的に評価する。
- ・どの授業においても複数の教員の意見を総合して、一人一人の院生の評価点を決定する。
- ・教育実践研究の評価については、普段の指導、日誌、実習先の先生方からの情報などを元に指導教員が作成した原案を教職大学院運営委員会に提出し、委員会で様々な専 門性を持った教員が総合的に評価をする。

高度な専門的知識・技能及び研究力

学校や地域の教育を深く理解し、教科教育の授業実践開 発及びカリキュラム開発に関する高度な専門的力量と研究 開発力を習得するカリキュラムを編成する。

学際的領域を理解できる深奥な教養力

現代社会の変化、教職科学の進歩、子どもの変容など幅 広い課題に対応できる高度で普遍的な教養を身につけると ともに、教科教育学の知見を動員して、各教科の特性を理 解するとともに教科横断的・総合的な授業開発・実践等に 挑戦できる能力を育成するカリキュラムを編成する。

グローバルな視野と行動力

グローバル化の中で、教科に求められる新しい授業実践 に対応しようとする幅広い視野と行動力を育成するカリ キュラムを編成する。

地域社会を牽引するリーダーカ

教科の指導や新しい高度な授業開発において、地域に貢 献し、学校を牽引できるリーダーとしての資質を育成する カリキュラムを編成する。

教育実践研究科目

教育実践研究 III

教育実践研究 II

次

共通科目

複合領域

インクルーシブ教育システム論

教科等の授業開発・実践研究Ⅰ~Ⅳ 教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・ 実践研究Ⅰ~Ⅱ

研究報告書作成

「豊かな心」を育む授業実践の開発

専門科目

成果報告会

道徳教育と生徒指導 学校保健の理論と実践

教育コミュニケーションデザ イン特論

共通 必修領域

教育研究方法論 実践課題研究

共通科目

教育実践研究 I

「21世紀型能力(確かな学力)」を育成す 教育相談実践論 るカリキュラム・デザイン

学校カリキュラム・授業の改善を図るための 学校マネジメントと学校改善 マネジメント

「21世紀型能力(確かな学力)」を育成す る協働的な学びの授業デザイン

小学校英語活動の授業デザイン 授業のユニバーサルデザイン論

ICT教育実践論

生徒指導実践論

学級経営の実践と課題

学校教育と集団心理療法

現代教員論

学校と地域社会(地域と共にある 学校づくり)

複合領域

ネット教育コミュニケーション論

専門科目

学習科学・授業研究方法と授業 開発・実践研究 教科と教科外活動の関連的な学

習の授業開発・実践研究Ⅲ~Ⅳ 牛徒指導問題解決方法 I 健康教育の理論と実践Ⅰ・Ⅱ

学校と家庭・地域の連携構築 学校の危機管理の理論と実践

教育学研究科教職実践開発専攻(教職大学院) 特別支援教育実践高度化コース カリキュラムツリー

ディプロマポリシー:

教職実践開発専攻(教職大学院)特別支援 教育実践高度化コースを修了するためには、 当該課程の標準修業年限 2 年以上在学し、共 通科目 20 単位、教育実践研究科目 10 単位、 専門科目 20 単位、合計 50 単位以上を修得 すること。

研究報告書を作成し、教職実践開発専攻の 審査委員会の審査に合格すると、特別支援教 育実践高度化コースを修了することができる。

修了した者には、教育修士(専門職)の学 位が授与される。

カリキュラムポリシー:

①全体の方針

特別支援教育実践高度化コースは、教育実践に関する専門的知識・技能を深化させて資質・能力(コンピテンシー)を育成する研究、新しい分野の指導方法や学校・地域 の課題解決法の開発などに関する研究力と開発力に支えられた高度な教育実践力を備えた人材を育成するための理論と実践の往還を特徴とするカリキュラムを編成する。

②教育課程編成の方針(「修得すべき知識・能力」への対応)

下記枠内に示す。

- ③教育課程における教育・学習方法に関する方針
- ・様々な専門性を有する研究者教員と実務家教員が関われるように、多くの授業を、オムニバス方式ではなく共同開講の方式にしている。
- ・主体的で対話的に学ぶことを重視し、ディスカッションや発表の時間などを多くとっている。
- ・教育実践研究(実習)を10単位設定して、常に、大学院生が、教育現場で学べる体制をとっている。
- ・教育実践研究における実習場所は、学校だけでなく、不登校児童・生徒の適応指導教室、非行少年の支援施設、情緒障害児短期療養施設等も設定している。これらの施設 で学んだ大学院生は、心理学や教育学を専門とする教員と振り返りミーティングをもち、理論と実践の往還を体験する。
- ・大学院生が、地域や学校現場に積極的に出向いてゆき、そこで起こっている問題を現場の人と一緒に考える授業も複数開講されている。
- ④学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、教育実践研究・特別支援教育実践研究の取組状況、研究報告書の作成状況、取得単位数、GPA等を可 視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価する。また、研究報告書については、研究報告書の評価基準を明示し、その基準に基づき適 切に評価する。

- ・どの授業においても、試験、レポート、授業への積極的関与などの複数の視点から、総合的に評価する。
- ・どの授業においても複数の教員の意見を総合して、一人一人の院生の評価点を決定する。
- ・教育実践研究の評価については、普段の指導、日誌、実習先の先生方からの情報などを元に指導教員が作成した原案を教職大学院運営委員会に提出し、委員会で様々な専 門性を持った教員が総合的に評価をする。

高度な専門的知識・技能及び研究力

学校や地域の教育を深く理解し、特別支援教育に関する 高度な専門的力量および校内支援体制コーディネート力、 インクルーシブ教育システムに関する専門的知識と研究開 発力を習得するカリキュラムを編成する。

学際的領域を理解できる深奥な教養力

現代社会の変化、教職科学の進歩、子どもの変容など幅 広い課題に対応できる高度で普遍的な教養を身につけ、特 別支援教育に関連する諸科学の知見を動員して、特別な支 援を必要とする子どもに対する高度な問題を解決する能力 を育成するカリキュラムを編成する。

グローバルな視野と行動力

グローバル化の中で、特別支援教育に関する現代社会が 直面する教育問題に対応するための高度な専門知識と幅広 い視野と行動力を育成するカリキュラムを編成する。

成果報告会

地域社会を牽引するリーダーカ

学校・地域・家庭との連携を密にして、学校と地域との 交流を深め、地域の問題解決の方法を開発し、特別支援教 育に関連する分野において、地域に貢献し、学校を牽引で きるリーダー力を育成するカリキュラムを編成する。

教育実践研究科目

特別支援教育 実践研究 II

特別支援教育 実践研究I

教育実践研究 I

共通科目

複合領域

インクルーシブ教育システム論

専門科目

研究報告書作成

コミュニケーション障害児の理解と支援 重度・重複障害児の理解と支援

特別支援学校カリキュラム・マネジメント論 自立活動指導演習

心理教育アセスメントの理論と実践

教育支援計画作成演習

通級指導教室・特別支援学級 の運営演習

共通 必修領域

教育研究方法論

実践課題研究

共通科目

「21世紀型能力(確かな学力)」を育成す るカリキュラム・デザイン

学校カリキュラム・授業の改善を図るための 学校マネジメントと学校改善 マネジメント

「21世紀型能力(確かな学力)」を育成す る協働的な学びの授業デザイン

小学校英語活動の授業デザイン 授業のユニバーサルデザイン論

ICT教育実践論

牛徒指導実践論 教育相談実践論

学級経営の実践と課題

学校教育と集団心理療法

現代教員論

学校と地域社会(地域と共にある学校づくり)

複合領域

ネット教育コミュニケーション論

専門科目

特別支援教育論 発達障害児の理解 と支援 特別支援学校教科指

導演習